

2014年2月16日 主日礼拝
説教 たいせつな質問
マタイの福音書 16章 13-20節

【土台はキリスト】

主イエスの一番たいせつな質問に対するペテロの答は、「あなたは、生ける神の御子キリストです」(16)。ペテロは主イエスが神の子、子なる神であることを認めました。神さまが人となって、自分の目の前に立っておられることを認めて告白したのです。信仰告白というと、人間が信じ、人間が告白する、そういう人間の行動を中心にしたモノの言い方。けれども、私たちが信仰告白できるのは、神さまの恵みによります。主イエスに私たちが接ぎ木される、主の生命が流れ込む、そこに信仰告白が生まれる力があるのです。

【ペテロを生かす力】

この信仰告白を生み出したいのちの力。ペテロの中に生まれた新しいいのちは、ペテロを生かし続けることとなります。ペテロは、自分を土台とする人生から、キリストを土台とする人生へと方向転換をしました。自分ではなく、キリストを土台とする生き方へ。自分を土台とする人生では、自分の失敗は致命的です。失敗を認めることができず、神さまとの関係や他の人との関係を損ねてしまいます。けれども、キリストを土台とする人生はそうではありません。自分の失敗や罪も、主イエスにおわびすればよい。そして赦していただ

き、ますます自分が変わっていけばよいのです。

この信仰告白をした後も、多くの失敗や罪をくり返したペテロは、ついに十字架前夜、主イエスを知らないと言ってしまいました。けれども、ペテロはいつも立ち直ることができました。悔い改めて、主イエスにとどまることができました。それは、主に接ぎ木されたから。ペテロの中には主イエスのいのちが流れ込んでいたからでした。

【この岩の上に】

ペテロの信仰告白に対して、主イエスはこう言います。「あなたはペテロです。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます」(18)。ペテロというのは岩という意味。石ではなく大きな岩の塊です。岩とはペテロの「あなたは、生ける神の御子キリストです」という信仰告白。だから、この信仰告白をする者は教会に加えられていきます。ただ口で言うということではなく、主イエスのいのちに接ぎ木されるのです。教会は「あなたは、生ける神の御子キリストです」と言う者たちの集まりです。主イエスが私たちの救い主であり、導き手であることを認めるのが教会。そして主イエスに従っていくのが、教会。そして、さまざまな違いをもった私たちが同じ主イエスを仰いで、愛してお仕えて生きていく、それが教会です。

私たちはみなそれぞれに違います。その私たちがいっしょに生きていく。一致して生きていく。間違えてはならないのは、考え方が一致するのが教会の一致ではないということです。さまざま

に違う私たちが、語り合う。語る人も言葉が足りない。聞く人も聴く力がない。何でそれを補うのか。愛です。語る者がありつたけの愛で、言葉を尽くして語り、聴く者もありつたけの愛で補って聴く、そうやって、手と手を精一杯伸ばして、やっと思先と指先とがわずかに触れ合うような私たちです。そんな不十分なコミュニケーションの中で、互いを傷つけ、傷ついてしまう私たち。

けれども私たちの土台は、主イエス。主イエスのいのちが私たちに覆っている、主イエスのいのちが私たちに流れている。傷ついて、傷つけて、涙を流す私たちだけでも、涙を流しながらも、たがいに覆い合う。「ああ、痛い、痛い、あなたといると私は痛い」と言い合いながら、たがいのたましいを抱きしめ合うところに癒しが始まります。

【小さな死】

カトリックの渡辺和子シスターは、ときおり口の中で「リトル・デス(小さな死)」とつぶやくそうです。「他人に流されないで生きる」「相手が無礼な態度を取ったのに仕返しをすることなく許す」「相手が恩知らずなのにこちらがやさしくしてあげる」、みな「小さな死」です。そんな死が可能なのは、十字架で究極の「大きな死」を主イエスが味わってくださったからです。

ここにキリストを土台として生きるキリスト者の生き方があります。どうか私たちがかたくなさや、憶病によって、いのちがあふれるのを制限してしまうことがないように。